

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の日安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	関係市と協力して、河川・水路の整備を引き続き進める。
②①に基づく取組み結果	松戸市が実施する紙敷川改修事業において、事業に要する負担金を支出した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要な水路 その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、1時間あたり50mmの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	松戸市主体により実施している、紙敷川改修事業において、詳細設計委託及び用地取得を(A=31.1㎡)実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.5	6.5	6.5%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.6	2.6	2.6%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9ha	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	3,721	651	金額(千円)	内容	15,116	
国支出金(千円)			651	令和2年度紙敷川改修事業負担金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)					8,500	
一般財源(千円)	3,721	651			6,616	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下流河川の整備の日安がついていないため、1時間あたり50mmの降雨に対応した整備に取り組めていない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	紙敷川改修負担金	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	紙敷川改修事業の詳細設計委託及び用地取得	1,020	1,020	当初	1,020	651	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		現年分	651
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				令和3年度への繰越額(単位:千円)		0		

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護のための暫定改修や、1時間あたり50mmの降雨に対応した河川の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んできている場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準用河川二和川バイパス整備工事を実施した。(L=115. 2m)</li> <li>・準用河川二和川護岸改修工事を実施した。(L=61. 5m)</li> <li>・準用河川二和川の物件補償と用地取得を実施した。(A=336. 5㎡)</li> </ul>						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	暫定改修実施率	21.9	21.9	22.5	%	業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.4	11.4	11.4	%	業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	80.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	298,396	497,290	金額(千円)	内容		561,967	
国支出金(千円)	64,300	108,700	70,644	準用河川二和川バイパス整備(第5期)工事		70,713	
県支出金(千円)			118,582	準用河川二和川バイパス整備(第6期)工事			
市債その他(千円)	210,388	154,811	100,874	準用河川二和川護岸改修第32期工事		209,400	
一般財源(千円)	23,708	233,779				281,854	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻りの無いよう実施する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	二和川整備及び二和川護岸改修	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	二和川バイパス整備、二和川護岸改修及び物件補償、	631,885	766,172	当初	401,667	R1からの繰越	131,843
R1⇒R2繰越				131,848			
③達成状況	完了			補正	230,218	現年分	365,447
④未完了・非着手の理由				流用・充当	2,439		
				令和3年度への繰越額(単位:千円)		253,075	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況の変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	・鎌ヶ谷二丁目地区(5期):38.6m、鎌ヶ谷八丁目地区:12m、東道野辺七丁目地区:10.5m、中央二丁目地区:浸透樹設置2箇所の地域排水整備工事を実施した。 ・雨水浸透樹設置モニター工事にて雨水浸透樹を15基設置した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	22	24	25	箇所	業務取得
	ii	浸水面積(地域排水)	10	10	9.3	ha	業務取得
iii	浸透樹設置基数	7196	7265	7347	基	業務取得	
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	130,091	50,689	金額(千円)	内容		66,190	
国支出金(千円)	0		28,617	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第5期)		0	
県支出金(千円)	0		832	雨水浸透樹設置モニター工事		0	
市債その他(千円)	66,000	42,200				24,300	
一般財源(千円)	64,091	8,489				41,890	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し、事業を進める必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	鎌ヶ谷二丁目及び八丁目、東道野辺五丁目及び七丁目、初富字林跡及び字五本松、、中央二丁目、浸透樹モニター。	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	鎌ヶ谷二丁目及び八丁目、東道野辺五丁目及び七丁目、初富字林跡及び字五本松、、中央二丁目、浸透樹モニター。	76,286	82,471	当初	76,286	50,689	R1からの繰越	8,624
				R1⇒R2繰越	8,624			
③達成状況	未完了			補正	0		現年分	42,065
④未完了・非着手の理由	東道野辺五丁目地区地域排水整備詳細設計委託、初富字五本松地区地域排水整備工事を繰越をしたため。			流用・充当	-2,439			
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				25,575		

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減を図るため、早期に事業を完了させるべく、鋭意用地取得を進める。
②①に基づく取組み結果	串崎新田貯留池整備事業に伴う用地取得を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う 雨水の流出を抑制する
②事務事業の概要	大雨時における流出抑制のための貯留池整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる、依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	串崎新田貯留池整備事業に伴う用地購入等(A=1, 109㎡)を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	河川貯留池の暫定整備率	87.5	87.5	87.5	業務取得
	ii	河川貯留池の整備率	57.1	57.1	57.1	業務取得
	iii	貯留量	43,520	43,520	43,520	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	53,224	31,865	金額(千円)	内容		57,430
国支出金(千円)			28,496	串崎新田貯留池用地購入		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	37,900	29,300				34,800
一般財源(千円)	15,324	2,565				22,630

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	放流先の河川の能力が不十分となっている中で、貯留池整備は有効な治水対策であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	用地購入、詳細設計委託	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	用地取得	44,074	44,074	当初	44,074	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		
③達成状況	未完了	44,074	44,074	補正	0	現年分	31,865
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由	串崎新田貯留池実施設計委託について繰越したため。	令和3年度への繰越額(単位:千円)		7,691			

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	流域環境整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	2	○
政策	快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川管理課			
施策	うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	永東 昇			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の制定。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の検討。
②①に基づく取組み結果	国基準の情報収集と動向調査。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	河川、水路、調整池	意図(対象をどうするのか)	施設の機能維持
②事務事業の概要	河川、水路、調整池の適正な管理を行うため、除草、清掃やパトロールの委託を行うとともに、必要な補修工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の老朽化が進んでおり、修繕とともに、長寿命化のための対策が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	○河川管理委託 ○河川・水路清掃委託 ○スクリーン清掃委託 ○河川・水路維持工事						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	河川・水路に対する満足度	16.0	—	—	%	市民意識調査
	ii	河川・水路除草面積	68,126	63,376	63,086	m <sup>2</sup>	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	34,406	28,409	金額(千円)	内容		29,612	
国支出金(千円)	0	0	17,300	委託料		0	
県支出金(千円)	0	0	11,050	工事請負費		0	
市債その他(千円)	0	0				0	
一般財源(千円)	34,406	28,409				29,612	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化に伴う修繕や長持ちさせるための対策。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	法定管理者の責務として機能維持に努めることが必要なため					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	河川・水路の清掃・維持工事	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	河川・水路の清掃・維持工事	28,474	28,474	当初	28,474	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		
③達成状況	完了			補正		現年分	28,409
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		令和3年度への繰越額(単位:千円)		0			